

[内閣官房について](#)[会見・発表](#)[政策・制度](#)[情報提供](#)[トップページ](#) > [各種本部・会議等の活動情報](#) > [デジタル行財政改革会議](#) > デジタル行財政改革 課題発掘対話（第8回） 議題・資料等

## デジタル行財政改革 課題発掘対話（第8回）

内閣官房 デジタル行財政改革会議事務局

### 1. 開催日

令和6年4月16日（火） 17:30～19:00

### 2. 議題

デジタル行財政改革における利用者起点で見た利便性と質の高い医療の実現

### 3. 出席者

- 河野 太郎 デジタル行財政改革担当大臣
  - 翁 百合 デジタル行財政改革アドバイザーボード構成員
  - 中室 牧子 デジタル行財政改革会議構成員
  - 佐野 雅宏 健康保険組合連合会 会長代理
  - 島貫 隆夫 （地独）山形県・酒田市病院機構 理事長
  - 長島 公之 （公社）日本医師会 常任理事
  - 狭間 研至 （医）嘉健会思温病院 理事長・院長  
ファルメディコ（株） 代表取締役社長
  - 渡邊 大記 （公社）日本薬剤師会 副会長
- ※敬称略、順不同

### 4. 資料

- [投影資料（翁氏）（PDF/1,858KB）](#)
- [投影資料（渡邊氏）（PDF/1,147KB）](#)
- [投影資料（佐野氏）（PDF/339KB）](#)
- [投影資料（狭間氏）（PDF/5,806KB）](#)

### 5. アーカイブ

以下のURLからYouTubeのアーカイブ配信をしております。

<https://youtube.com/live/jA3-kqmTEbw?feature=share=share>

#### 【連絡先】

内閣官房 デジタル行財政改革会議事務局  
〒102-0094 千代田区紀尾井町1-3  
TEL.03-5253-2111（代表）

[▲ ページのトップへ戻る](#)[ご意見・ご要望](#) | [プライバシーポリシーについて](#) | [リンク、著作権等について](#) | [サイトマップ](#)

内閣官房（法人番号3000012010001）  
〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1 TEL.03-5253-2111（代表）

Copyright © Cabinet Secretariat. All Rights Reserved.

内閣官房

Cabinet Secretariat

# 医療DX推進における現状の主な課題



薬局において、医療DX推進による患者情報の取得・利活用は、より安全・安心な質の高い医療提供に寄与するものであり、現在、その普及定着に積極的に取り組んでいます。

しかし、現在はその入口であり、特に以下の項目において課題があるものと認識しています。

- ① 電子処方箋
- ② 「薬局DX」の推進
- ③ システム改修への対応など

2024年4月16日

日本薬剤師会

副会長 渡邊大記



# ①電子処方箋

- ◆ 処方箋だけを電子化しても、薬剤師・薬局の業務の効率化は進まない。
- ◆ 薬局全体のインフラ整備、特に調剤室における電子処方箋の取扱いに対応した調剤業務環境のデジタル化の早急な実現が必要。

- 薬剤師は、患者ごとに処方された内容を誤りなく確実に調剤するため、実際の処方箋を手元に置き、その内容を確認しながら調剤を行っている。
- 現在の薬局（特に調剤室）の業務フローは、紙媒体の処方箋を想定したもの。
- 電子処方箋による調剤の場合、薬剤師毎に処方箋閲覧用の機器（タブレット端末等）が整備されていないため、電子処方箋の内容を紙に印刷して、調剤室ではそれを確認しながら調剤を行っている状況。
- 紙の使用量や手間が増えてしまい、かえって業務負担となっているのが現状。
- 電子処方箋の活用および推進のためには、**薬局全体（特に調剤室内）のインフラ整備（例えば、調剤にあたる各薬剤師がそれぞれにタブレット端末等を活用した業務が可能な環境構築など）**、調剤業務全般を見据えたデジタル化の実現が不可欠。

## ②「薬局DX」の推進

- ◆ より質の高い医療提供の実現のために薬局は、医療機関から患者の診療情報の提供を受け取るだけでなく、**薬局が有する調剤情報・服薬情報等を医療機関へ提供すること**（相互連携）が重要。
  - ◆ 医療機関等とのデジタル情報を活用した**相互連携を実現するためには、薬局の基盤整備を含めたDX化**が不可欠。
- 薬局から医療機関等への**患者の調剤情報・服薬情報等の提供**は、医師をはじめとした関係する職種等による情報共有とスムーズな連携の推進につながり、医療機関側において、これら情報が活用されることで、より質の高い医療提供が実現できる。
  - 薬局からの情報発信においては、**調剤録・薬歴情報のデジタル化のためのコード化や標準化**など、電子カルテ等の情報連携基盤への電子的情報交換の実現が必要。

### ③システム改修への対応など



- ◆ オンライン資格確認等システムの導入以後、ベンダによる機器の改修が次々と必要になっているが、**様々な要因により改修対応が追い付いておらず**、スケジュール的にも余裕がないのが現状。
- ◆ できるだけ余裕を持ったスケジュール感で、かつ、目指すべきゴール、**全体像が把握可能な形でのシステム提供**となるようお願いしたい。
- DX化に係るシステム改修に十分な準備期間がなく、**薬局現場は不安視**している。
- DX化に係る補助金などの支援の仕組みはあるものの、実際には薬局による費用の持ち出しが多く発生している。医療DX推進の必要性は十分理解しているが、このような状態が続くことになると、**現場のモチベーション低下が懸念**される。
- オンライン資格確認等システムに関しては、ここ2年間で、電子処方箋システムの実装、医療扶助対応、在宅対応、公費医療負担対応、電子処方箋のリフィル処方箋対応、口頭同意対応に係る機能追加等が随時行われており、薬局においては、**その度にベンダによるシステム改修が必要**となっている。